

機関番号：11301

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2010

課題番号：20530681

研究課題名（和文） 帝国大学学生史資料の基礎的研究—東北帝国大学を中心に—

研究課題名（英文） Fundamental Study of Archives of Student Life in Imperial University
—mainly about Tohoku Imperial University—

研究代表者

永田 英明 (NAGATA HIDEAKI)

東北大学・学術資源研究公開センター・准教授

研究者番号：20292188

研究成果の概要（和文）：

近代日本の大学史を学生史という観点から考察するための基礎的な取り組みとして、東北帝国大学における学生史関係史料の調査整理をおこない、その成果をふまえ他大学との比較・総合という観点から分析をおこなった。さらに同時に大学アーカイブズにおける学生史史料の収集保存と公開のあり方について検討した。

研究成果の概要（英文）：

As a fundamental measure for considering the history of university in modern Japan from a viewpoint of the history of students, We researched historical records of students studied in Tohoku Imperial University, and the other imperial universities from a viewpoint of comparison.

Furthermore, we considered about the method of collection, preservation, and Public presentation at university archives.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2009年度	600,000	180,000	780,000
2010年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	2,300,000	690,000	2,990,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育学

キーワード：教育史・大学史・アーカイブズ

1. 研究開始当初の背景

近代社会の人材養成を担う、高等教育段階での学校教育や学生生活史・学生文化の研究は、近現代における学術・文化・社会形成を考える基礎的な課題である。このうち高等教育の前半段階に相当する高等学校段階における学生生活・文化史は、人格形成に旧制高等学校教育が大きな役割を果たしたという評価と相まって、ある程度の研究蓄積を見ること

が出来る。しかしながら、その後半段階にあたる旧制大学段階での学生生活・文化史については蓄積がまだ十分とは言えない。近年盛んに行われている個別大学の沿革史編纂事業でも、このテーマに関する言及は偏りが目立ち、必ずしも通史的な展望が描かれているわけではない。

申請者はこれまで、東北帝国大学や旧制第二高等学校などを中心的素材とする形で、旧制高等教育機関における学生史資料の調査を

行ってきた。その中核をなすのは大学の管理する公的記録の一環として作成される公文書や刊行物資料であり、これらは学生政策という視点から学生史を把握する上で大きな効果を有する。一方で教師と学生生徒で自律的に運営される様々な教育組織・学生組織のあり方についても、その資料の存在形態と合わせて分析をしていく必要がある。上記の研究の進展には、その基盤となるこうした情報資源(資料)の共有化が欠かせない。これに関しては近年設置が相次いでいる大学アーカイブズが資料の集積・公開の拠点として役割を果たすことが期待される。しかし大学アーカイブズにおいて現在公開されている学生政策資料は意外に少なく、全体像の把握はまだこれからの課題である。申請者の勤務する東北大学史料館には、旧学生部からの移管文書が所蔵されており、このほかにもいくつかの学生団体の資料や個人資料が所蔵されている。これらの調査整理・公開と分析を、他大学の資料と比較しながら進めることで、本研究の基礎資料を把握するとともに、戦前～敗戦直後期の帝国大学の学生史研究の進展に裨益することができると考える。

2. 研究の目的

(1) 東北帝国大学学生史資料に関する情報の収集と共有化

戦前期東北帝国大学の学生政策及び学生団体にかかる資料を調査・整理しデータベース化を図ってその公開環境を整えることで、資料情報の共有化を図る。

(2) 帝国大学における学生関係組織とその資料の存在形態の把握

東北帝国大学の事例を中心としつつ、他の旧帝国大学における学生史資料の状況についても調査等を行い、比較検討の観点から帝国大学学生史資料の全体的な存在形態について見通しを得る。同時にそうした資料のあり方な内容の分析を通じて、帝国大学における学生関係組織の存在形態についても検討分析をおこなう。

(3) 大学アーカイブズにおける学生史資料の保存公開のあり方の検討

学生生活に関する資料は、各大学において残存の状況に差異が存在する。また資料の性格という点でも公文書・関連団体文書・個人文書といった来歴性格の異なる多様な資料の活用が必要となる。これらの相互関係を意識した調査分析を行い、大学アーカイブズにおける学生史資料の収集保存・評価・公開のあり方について見通しを獲得する。

3. 研究の方法

○調査研究の手法

(1) 東北大学所蔵公文書の調査・整理・分析
東北大学史料館には現在、帝国大学時代の旧学生課(学生監)や庶務課(教務関係)の資料が移管されている。この資料については、東北大学史料館の業務として作成された部内用の簡単な仮目録がすでに作成されているが、調査研究の基礎とするには情報が不足しているため、これをベースにしつつあらためて内容を調査し、旧学生部系統資料における帝国大学学生生活史に関わる情報(学生団体、厚生事業、学生思想・文化活動等)に関わる資料を中心に情報の整理を行い、さらにその精査の結果を反映したデータベースを作成した。またこれらの資料の残存状況・内容に関する基礎的な分析をおこなった。

(2) 東北大学における学生団体刊行物の精査・分析及び目次データベースの作成
大正から昭和初期の東北帝国大学では、自修会(理)・良陵会(医)・工明会(工)といった学部単位の学友会組織が刊行する刊行物が刊行され、また発行期間が極めて短かったものの、全学的な学生新聞等の刊行物も発行された。さらに運動部や文化部、研究室等、学生の学業や課外活動、さらには学外での活動に関わる様々な刊行物が刊行され当該時期の学生生活の実態を知る好個の資料となっている。これらは東北大学史料館に集約されているもののほか、各学部や関連組織に散在するかたちで保存されているものも少なくない。これらは大学図書館の図書登録もされておらず所在情報や内容情報の集約・公開が行われていないため現在極めて利用しにくい状況にあるので、これら学生団体の刊行物について、目次情報レベルまでを完備したデータベースを作成した。

(3) 聞き取り調査

東北大学史料館に収集されている上記の既存資料に加え、関係者への聞き取り調査を中心とした新規の情報収集をおこなった。

(4) 他大学資料の調査

関連資料の補完と、他の帝国大学との比較研究の素材収集とを兼ね、他の旧帝国大学における資料調査を実施した。具体的には、京都大学大学文書館、北海道大学大学文書館、九州大学大学文書館、東京大学史料室の4つの大学アーカイブズ、および大阪大学文書館設置準備室における調査を実施した。

○研究体制

上記(1)、(2)の大学公文書及び学生刊行物の資料調査およびデータベース化は、全体的に

は研究代表者が大学院生等の研究補助者による支援を受けながら実施した。研究分担者は、特に理工系学生に特有の学業・学生生活学資料について、研究代表者と協議しながら調査を進める。学外資料の調査については、研究代表者と研究分担者が各自の担当部分について実施した。

4. 研究成果

(1) 東北帝国大学学生史資料に関する情報の収集と共有化

①東北大学所蔵公文書について、まず平成20年度において、学生に関する情報を多く含む庶務課文書を中心に、21年度以降は旧学生部文書を中心とするかたちで調査整理を実施し、そのデータベース化をおこなった。調査成果は『東北大学史料館紀要』にて公表し、同時に、東北大学史料館の公開データベースにその成果を反映させた。

②「自修会報」(理学部)、「工明会誌」(工学部)、「良陵」(医学部)の三種の学友会誌およびについて調査を行い、データベース入力作業を完了した。その成果は、すでに記事目録が作成されていた『東北帝国大学法文時報』『東北帝国大学新聞』とあわせて、上記同様東北大学史料館の公開データベースにその成果を反映させた。

③上記①の一部および②の内容をまとめた『東北帝国大学学友会誌・学生新聞記事目録付、東北大学学生新聞関係資料』を編集・刊行した。

④関係者へのヒアリングを合計9回にわたり実施し(土倉保、森田章、佐藤利三郎、遠藤榮一、酒井高男、虫明康人、苜木浅彦)戦前・戦中期の大学生・大学院生(大学院特別研究生含む)等の学生生活にかかる資料の収集をおこなった。その成果の一部は『東北大学史料館紀要』にて公表した。

(2) 帝国大学における学生関係組織とその文書等の存在形態の把握

①資料の存在状況

各帝国大学における学生関係資料について調査をおこなった。学生課など学生監督部門の公文書については、庶務系統の部門に比し各大学における資料の残存状況にかなりのばらつきがあることが判明したが、同時にそれぞれの特色を把握することで、これらを総体として把握することで学生関係資料の全体像を復原考察していくことが可能であるとの見通しを得た。具体的には、まず戦前期の帝国大学における学生監督部門(学生課・学生監室)の文書は、北海道大学(大学文書館)において比較的良好に残されていることが判明した。一方東京大学や京都大学では、

こうした部門の文書は現在のところ存在が確認できない状況であった。但し京都大学で『学友会関係資料』として現在保存公開されている、京都帝国大学学友会の事務文書は、もともと学生監室(学生課)等学生監督を担当する事務部門において管理されていたものと見られる。逆に学生課文書が残存している北大や東北大ではこうした学友会そのものの文書はほとんど含まれていないが、元来は同様の資料が存在した可能性が考えられる。但し京大の学友会関係資料も公文書として継続的に管理されてきたものではなく、これは、事務部門と教員学生によって組織される学友会という組織が、大学の事務部門によって管理される公文書とはやや区別されていたことの反映と見られる。

②学生関係組織の存在状況

上記①の資料に関する調査分析と並行して、それを残した組織自身の有り様についても分析をおこなった。その結果、文部省の学生監督政策の転換点として従来から重視されてきた昭和3年の「学生課」の設置にさかのぼって、学生監督事務を担当する事務部門たる「学生監室」なる組織が、遅くとも大正13年頃までに各帝国大学に設置されていたこと、昭和3年の学生課設置はこうした「学生監室」の大幅な整備拡充という性格をあわせ持っていたことが明確となった。明治期以来帝国大学には教官等の兼務する「学生監」が設置されていたが、「学生監室」の設置は、学生監督にかかる事務部門の設置という点で、制度的にも、またアーカイブズの形成という点でも重要であり、実際北海道大学や東北大学に残る学生課文書の状況にもこうした状況が反映されていると考えられる。

また、こうした学生監室や学生課組織の横断的な整備に伴い、帝国大学学生監会議や同学生監室事務協議会など、各大学の持ち回りで開催される会議が開催されるようになるが、各大学に断片的に残存しているこうした会議体の資料を複合させることで、帝国大学の側からの学生政策の課題認識等を把握できることが判明した。

(3) 大学アーカイブズにおける学生史資料の保存公開のあり方の検討

大学における学生史資料は、その管理・伝来形態という観点から把握するならば、その特色は重層性、という点にある。こうした組織の重層性は、学校や企業体などの機関アーカイブズに普遍的なものであるが、特に大学のような、多数の自律的な学生団体等を抱える組織において典型的に表れるもので、学生史資料に着目することで、地域アーカイブズとは異なる「機関アーカイブズ」の課題が明瞭となる。具体的には、①学生課・教務課等

学生管理にかかる事務部門の資料(文書)があり、②全学学友会など学生団体を直接統括する組織の資料(文書)があり、さらに③個々の学生団体等の運営に係る資料(文書)がある、といった具合である。このうち①については、「公文書」としての位置づけが比較的明瞭であるため、他の事務文書同様の文書管理システムに則って管理され、アーカイブズへの移管システムに則った移管を実施しやすい。一方③各々の学生団体等において管理され、②の場合も事務部門で管理されているか否かは結局組織の運営形態にかかっている。このような資料は上記の公文書管理システムの対象外であることが通例でありこうした資料を歴史資料としてアーカイブズに集約するためには、公文書移管とは別のシステムにより対応する必要がある。現実には多くの大学アーカイブズにおいて②や③の資料は「個人情報」等の範疇で扱われているが、組織としての継続性・公共性という観点からすれば、個人情報とも異なる独自の位置付けを模索していく必要がある。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計8件)

1. 永田英明, 帝国大学学生監事務協議会・帝国大学学生監会議について, 東北大学史料館紀要, 査読無, 第6号, 2011年, 52-59
2. 小幡圭祐、吉葉恭行, 東京帝国大学大学院特別研究生候補者の研究事項解説書—昭和十八年度～昭和二十年度—, 東京大学史料館紀要, 査読無, 29号, 2011年, 17-66
3. 永田英明, 東北帝国大学における学生監督組織とその文書, 東北大学史料館紀要, 査読無, 第5号, 2010年, 64-74
4. 永田英明, 戦中期の学生生活と「学徒出陣」—遠藤榮一氏への聞き取り調査記録—, 東北大学史料館紀要, 査読無, 第5号, 2010年, 76-93
5. 吉葉恭行, 東北帝国大学の産学官連携—関係規程の整備過程にみる「実用を忘れざるの主義」路線—, 東北大学史料館紀要, 査読無, 第5号, 2010年, 1-16
6. 永田英明, 東北帝国大学における文書編纂をめぐって—庶務課文書の調査・整理から—, 東北大学史料館紀要, 査読無, 4号, 2009年, 1-18
7. 吉葉恭行, 戦時下の大学院特別研究生制度と東北大学—元特別研究生への聞き取り調査を中心に—, 東北大学史料館紀要, 査読無, 第4号, 2009年, 75-104
8. Yasuyuki Yoshida, THE SPECIAL GRADUATE EDUCATION SYSTEM DURING WORLD WAR II,

Saito-Ho-on Kai Museum Research Bulletin, 査読無, No.73, 2008年, 37-42

[学会発表] (計2件)

1. 吉葉恭行, 戦時下の大学院特別研究生制度について—東北帝国大学の事例を中心に—, 日本科学史学会, 2009年5月23日, 九州大学(福岡県)
2. 吉葉恭行, 戦時下の大学院特別研究生制度について—東北大学の聞き取り調査を中心に—, 日本科学史学会, 2008年5月25日, 電気通信大学(東京)

[図書] (計1件)

1. 永田英明編, 東北帝国大学学友会誌・学生新聞記事目録, 2012年, 1-359ページ

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

○取得状況 (計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

[その他]
ホームページ等
<http://www2.archives.tohoku.ac.jp>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

永田 英明 (NAGATA HIDEAKI)
東北大学・学術資源研究公開センター・助教

研究者番号: 20292188

(2) 研究分担者

吉葉 恭行 (YOSHIBA YASUYUKI)
東北大学・学術資源研究公開センター・協力研究員

研究者番号: 50436177

(3) 連携研究者 なし